

凸版印刷、インドのフィルムメーカーを連結子会社化

OPP フィルム製造大手 Max Speciality Films の株式を追加取得、
リサイクルに適したモノマテリアル材料のグローバル供給体制を拡大

凸版印刷株式会社(本社:東京都文京区、代表取締役社長:麿 秀晴、以下 凸版印刷)は、2017年にインドの OPP(二軸延伸ポリプロピレン)フィルム製造大手 Max Speciality Films Limited(本社:インド・パンジャブ州、CEO:Manohar Kumar、以下 MSFL)の株式を 49%取得し、持分法適用会社としています。このたび凸版印刷は、同社の株式を追加取得し、2022年2月1日に連結子会社化しました。

本件を皮切りに、凸版印刷はインドでの OPP フィルム事業に本格参入すると同時に、グローバル市場の幅広い顧客に対するモノマテリアル材料の供給体制を拡大、持続可能な社会の実現に貢献していきます。



■ 本買収の背景と目的

凸版印刷は、世界シェア No.1 の透明蒸着バリアフィルム「GL BARRIER(※1)」を軸に、日本を始めとするアジア地域や北米に生産拠点を置き、広くパッケージ事業を展開しています。2021年5月に発表した中期経営計画(2021年4月~2023年3月)では、「Digital & Sustainable Transformation」をキーコンセプトとして掲げ、特にパッケージ事業分野においては「サステナブル需要の獲得」と「地産地消体制の確立」による「グローバル展開の加速」を重点項目と位置付けています。

一方、MSFL は、1990年に創業、インド北部パンジャブ州に本社・製造拠点を置き、食品包装材向けを中心とする OPP フィルムの製造・販売を行っています。

凸版印刷は、2017年に MSFL の株式を 49%取得以来、マイノリティ株主として事業に参画してきました。今回、同社の株式を 90%まで追加取得し連結子会社化することで、成長市場の一つであるインドで、リサイクルに適したモノマテリアル包材としての活用が期待される OPP フィルム事業を強化します。

インドを熟知する MSFL がグループに加わることで、凸版印刷は、13億人の巨大市場のニーズを適確にとらえることが可能となり、さらに、モノマテリアル材料のグローバル供給体制を拡充していくうえで、キーとなる場所にフィルム開発・製造の拠点を手に入れることとなります。

■ 期待されるシナジー

① グローバルスケールでのサステナブル包材供給体制確立

MSFL の持つ OPP フィルムの製造ノウハウと、凸版印刷の持つバリアフィルムを中心としたフィルム成膜技術の共有と相互の取り込みにより、グローバルスケールでのサステナブル包材供給体制の拡充を図ります。

② 成長市場であるインド・パッケージ業界への本格参入

凸版印刷のパッケージ関連事業のネットワークに MSFL が加わることで、拡大するインド市場への本格的なアプローチが可能となります。今後、凸版印刷が開発するサステナブルパッケージの提供先として、インドでのパッケージ事業を強化します。

■ 対象企業の概要

取得対象	Max Speciality Films Limited
所在地	インド共和国パンジャーブ州ナワンシャール
代表者	CEO: Manohar Kumar
事業内容	インドおよび海外市場向けの OPP フィルムの製造、販売
株式取得日	2022 年 2 月 1 日手続き完了
株式取得比率	90%

※1 GL BARRIER

凸版印刷が独自に開発した透明バリアフィルムの総称です。独自の蒸着加工技術による世界最高水準のバリア性能と用途に応じた豊富なラインアップを保有、透明バリアフィルムのトップブランドとして、国内だけでなく欧州、米州、アジアなど海外市場でも高い評価を得ています。 [URL:https://www.toppan.co.jp/living-industry/packaging/products/barrier_film/](https://www.toppan.co.jp/living-industry/packaging/products/barrier_film/)

* 本ニュースリリースに記載された商品・サービス名は各社の商標または登録商標です。

* 本ニュースリリースに記載された内容は発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。

以 上